

## 基調講演

# 日本語の役割語はなぜこんなに豊かなのか

## —文化史的観点から考える—

金水 敏

日本語学会第 169 回大会 公開シンポジウム  
「役割語研究の現在地—役割語から見た言語と文化」  
2024 年 11 月 9 日（土） 於 北海道大学

### 1. はじめに

日本語は、今日知られている諸言語の中でも、役割語（金水 2003/2023; 2014）のヴァリエーションと使用頻度という点で、質・量ともに高い水準にあると言えるだろう（表 1）。

#### （表 1） 現代日本語の役割語のヴァリエーション

性差：男ことば、女ことば、書生言葉、少年語、お嬢様ことば、奥様ことば、オネエことば

年齢・世代：老人語、おばあさん語、幼児語

職業・階層：博士語、上司語、お嬢様ことば、奥様言葉、王様ことば、お姫様ことば、やくざことば、ヤンキー語、スケバン語、軍隊語、遊女語

地域：田舎ことば、大阪弁・関西弁、京言葉、九州弁、土佐弁、沖縄ことば

時代：武士ことば、忍者ことば、公家ことば、遊女語、町人ことば、王様ことば、お姫様ことば

人間以外：宇宙人語、ロボット語、神様語、幽霊語、動物語

（金水 2014 より）

役割語が豊富な言語とあまり豊富とは言えない言語を比べてその要因を考える場合、言語構造（主として文法）の観点と、社会言語学的な観点の双方が必要である。前者に関しては金田（2011）が明らかにしているように、言語変異の作りやすさ・作りにくさが文法構造と関連していることを指している。すなわち、自称詞・対称詞の豊富さは、日本語が一致現象を持たないことと深く関連しているし、文末表現の豊富さは、SOV 言語でかつ膠着性が高いという典型的な特徴が関わっている。山口（2007）が、「日本語の役割語は足し算、英語の役割語は引き算」と言っているのはすなわち、日本語では統語論的制約がゆるいので主語や文末に自由度が高く、さまざまな語彙項目を付け足していくことが可能であるのに対

し、英語の場合は厳しい統語論的制約を破る＝引き算によって変異体を作る方法が主流になるということを端的に表している。また引き算によって生まれた変異体はそれだけで非正規的であり、ネガティブなイメージが付与されがちであるという点にも注意したい（後述）。

このように、文法的には日本語は役割語の変異体をつくるのが容易な文法であることが分かったが、例えば文法上の特徴が似ている韓国語では日本語とかなり状況が異なっている点（鄭 2007）を見ると、文法的特徴は条件の一部に過ぎない可能性が示唆されている。以降の節では、社会言語学的観点、特に文化史に重きを置いた分析を試みたい。

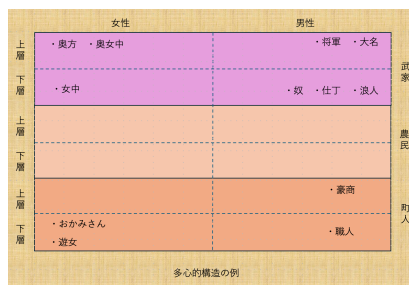
## 2. 変異体の分布に関する2つの観点

### 2.1 多心的構造

役割語の資源となる話体を言語使用者がどのように捉えるかという点に関して、少なくとも2つの見方があることを述べたい。多心的構造と、中心・周縁的構造の2つである。

例えば日本の江戸時代では、基本的に身分制を土台とする社会構造が形成されていた。ごく簡略的に言えば、武士層、農民層、町人層といった身分によるグループ分けがまずあり、それぞれの階層で上層部、下層部、場合によっては中層部といった区別がなされていた。さらにそれぞれの階層をジェンダーによって区分することが可能である（図1）。

（図1）身分社会における多心的な構造把握

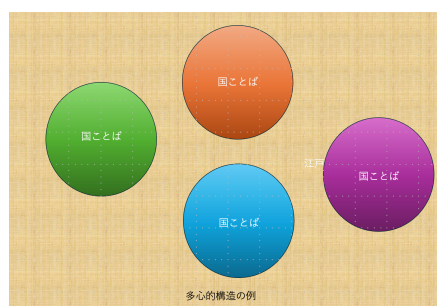


話体の変異は、それぞれの身分の標識として働くのであり、現実社会でもむろん機能するのであるが、歌舞伎、人形浄瑠璃、戯作、落語といった大衆向け作品では、それらの変異を言語資源として役割語が重要な機能を果たした（例：歌舞伎『三人吉三巴白浪』）。この場合、例えば上層町人の女性の話し方と、下層町人の男性の話し方には明瞭な違いがあるが、どちらがより正規の話体でどちらがそうでないというような区別はできない。単に、身分や境遇の違いに応じた話し方の違いがあるだけである。

同様のことは、方言についても言える。例えば江戸語と上方語では、どちらの話し方が由緒正しいかといったことを『浮世風呂』の登場人物たちが議論しているが（『譚話 浮世風呂』第二編卷之上、1809年）、それは単に銭湯の中で交わされる世間話の話題に過ぎず、言語と

しての威信の高さが社会的に問題視されていたわけではない。またそもそも「方言」という概念は、「標準語」が存在しない以上、厳密には存在しない。各藩によって話しことばに大きな違いはあったが、それは「国ことば」として認識されていたのであり、どこかの方言を高く見たり低く見たりという観点はほとんど存在しなかった（江戸のような都会で、田舎者のことばを垢抜けないとして笑いものにするというようなことはあったにせよ）（図2）。

（図2）「国ことば」の構造把握



ちなみに、江戸時代において言語の標準化は書き言葉のレベルでほぼ実現されていた。それは文体としての「候体」と書体としての「お家流」であり、この二つを身につけていれば全国どこに手紙を出しても読んでもらえて用件が達せられると考えられた。だから「寺子屋」等における庶民教育では、「往来物」と呼ばれる手紙のお手本が教科書として広く学ばれたのである。このような社会では、身分・性別等に応じた変異体を資源とする役割語は、大衆文芸や大衆芸能の場では人の表現として大変便利に使われるし、ことばの違いが偏見や差別に直ちに結び付くわけではなかった（そもそも身分制度自体が前近代的であり、差別的な社会であったわけではあるが）。

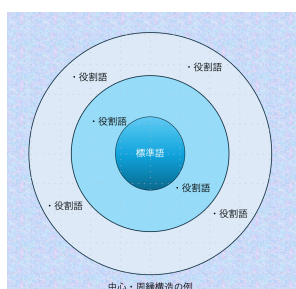
## 2.2 中心・周縁的構造

近代に入って話しことばの標準化が進むと、標準語がいわば変異体の中心をしめ、これに対して周縁部が認識されるようになる（言語の標準化については、高田・田中・堀田 2022 参照）。すなわち、「方言」が発見される（cf. 田中 2011/2024）。また、標準語の基準に合わない外国人（例：〈アルヨことば〉金水 2014/2023）の訛りや子供の発話などは、不完全な言語として認識されるようになる。日本でも、標準語普及運動が言文一致運動と相前後して近代に起こり、上記のような現象が生じた。

このように周縁的な変異体として認識されたスタイルが資源となって役割語が作られることがあるが、この場合、「正しく話せない人の発話」としてネガティブなイメージが役割語に与えられがちである。英語圏ではこのような現象が生じている（山口 2007）。また、このような構造においては、周縁の変異体はしばしば認識の外に置かれ、不可視的となる傾向

がある。例えば中国ではそのような状況が進行していると見られる。日本語の役割語の例を示されても、「中国語にはそのような現象はない」という反応が返ってくることが多いという（河崎みゆき氏の個人談話。Cf. 河崎 2024）。中国でも、前近代は身分社会であったので、多心的な構造を持った役割語が発達していたが、近代に入って身分制度が否定されるとともに、中心・周縁的な見方が一気に広がり、周縁部の変異体が不可視化されたのである（図3）。

（図3）中心・周縁的な役割語の構造把握

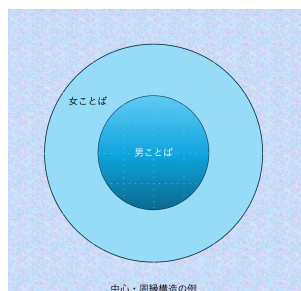


### 3. 日本語の役割語の特徴

日本では、話しことばの標準化が進む以前の江戸時代において、身分社会の多心的な変異体を資源とする役割語が発達した。このことによって、役割語を多心的に把握する習慣が日本の文化の中に根付いたと考えられる。

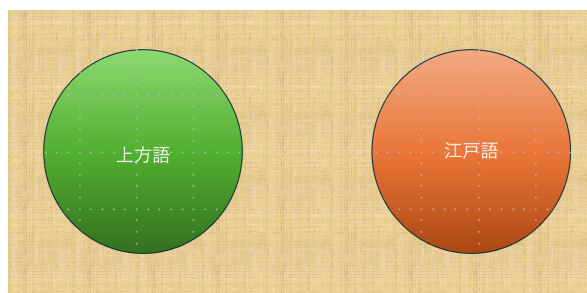
明治以後の近代化の中で、話しことばの標準化（言文一致運動・標準語普及運動）が進み、変異体に対する中心・周縁的な把握がもたらされた。その結果、「方言」が発見され、標準語に対して「訛った」「非正規的な」「前近代的な」話しことばとしての認識が発生し、そのような印付けが役割語にも利用された（例『風と共に去りぬ』の黒人奴隷の話しことば）。また、「国語」の発見とともに、「男性語」「女性語」の区別も見いだされ、「男性語」が正しい国語として認識されるとともに、「女性語」は教育や公的な場では不可視化されるということが起こった（中村 2007）（図4）。

（図4）ジェンダーの役割語の中心・周縁的な把握



このように、日本語の役割語に対する日本語話者の認識は、2種の構造把握が重ね合わされているとみられる。例えば「そうじゃ、わしが知っておるんじゃ」のような〈老人語〉は江戸時代の上方語に起源を持つ変異体であるが、当時の上方語は江戸語と同等、あるいはそれ以上の威信を持つスタイルであったので、決して方言として不可視化されたりネガティブなイメージが付与されたりすることはなかった（図5）。

（図5）上方語・江戸語の多心的な構造把握



また今日の関西弁に対しても、一方言としての周縁的な見方が適用されることはむしろ少なく、やはり標準語と同等の変異体として多心的に把握される傾向がある。

〈女ことば〉が、主として言語学者からの批判を受けながら、フィクションの中で衰退しつつあるとは言えない状況が続いているのは、中心・周縁的な把握と多心的な把握の両方が生きているからであろう。つまり、〈男ことば〉＝正規の国語ではない、劣った日本語として〈女ことば〉を見る見方だけではなく、表現者はいわば“身分”に応じた言葉遣いとして、人物の表現として〈男ことば〉と〈女ことば〉を利用している可能性があるのである。

#### 4. 結論

日本では、前近代的な身分社会における変異体の多心的な分布を言語資源として、役割語が発達した。このような構造把握と、実際の役割語は近代に引き継がれたが、一方で、標準語の確立とともに、中心・周縁的な構造把握に基づく変異体の認識が重ね合わされることとなった。後者のような認識が主流の社会では、役割語にはしばしばネガティブなイメージがまといせられるので、あまり活発ではなく、しばしば不可視化される。日本語の役割語が必ずしもネガティブなイメージを付与されていないのは、構造把握自体が多心的であり、役割語が必ずしも周縁性を負わせられないからと考えられる。それゆえに、役割語が常に可視的であり、活用されているのである。

#### 参考文献

金田順平（2011）「第7章 要素に注目した役割語対照研究：「キャラ語尾」は通言語的な

- りうるか」金水（編） pp. 127-152.
- 河崎みゆき（2024）『中国語の役割語研究』ひつじ書房.
- 金水 敏（2003/2023）『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店.
- 金水 敏（編）（2007）「役割語研究の地平」くろしお出版.
- 金水 敏（編）（2011）『役割語研究の展開』くろしお出版.
- 金水 敏（編）（2014）『〈役割語〉小辞典』研究社.
- 金水 敏（2014/2023）『コレモ日本語アルカ？ 異人のことばが生まれるとき』岩波書店
- 高田博行・田中牧郎・堀田隆一（2022）『言語の標準化を考える：日中英独仏「対照言語史」の試み』大修館書店.
- 田中ゆかり（2011/2024）『「方言コスプレ」の時代：ニセ関西弁から龍馬語まで』岩波書店.
- 鄭 惠先（2007）「第4章 日韓対照役割語研究：その可能性を探る」金水（編） pp. 71-93.
- 中村桃子（2007）『「女ことば」は作られる』ひつじ書房.
- 山口治彦（2007）「第1章 役割語の個別性と普遍性：日英の対照を通して」金水（編） pp. 9-25.

# 英語における役割語

## —社会的マイノリティと結びつく言葉づかいをケーススタディとして—

山木戸 浩子 (藤女子大学)

日本語学会第 169 回大会 公開シンポジウム  
「役割語研究の現在地—役割語から見た言語と文化」  
2024 年 11 月 9 日(土) 於：北海道大学

### 1. はじめに

話し言葉はその話し手のアイデンティティを映し出しているものだが、話し手が持つ特定の社会的属性(e.g., 性別、世代・年齢、居住地域・国籍・民族、社会階層・職業)を想起させる特徴(要素)は「役割語」と呼ばれる(金水 2003; Kinsui and Yamakido 2015)。この特徴(要素)には様々なタイプがあることが報告されており、特に顕著な指標として、人称代名詞(自称詞・他称詞)、文末形式(断定表現・終助詞・丁寧表現)、訛り(音韻変種)、音声的要素(アクセント・イントネーション・速度)などが挙げられる(金水 2003; 金田 2011)。

これまでの役割語研究において、日本語は世界の言語の中でも突出して役割語が豊富であることは示されている。一方で、英語はどうかと言うと、役割語としての使用が可能な要素は限定されており、その数は乏しい。確かに、英語にも特定の社会集団とステレオタイプ的に結びつけられる特徴が存在する。例えば、女性は同意や賞賛を示す“lovely”や“adorable”等の形容詞を好み、付加疑問文、精確に区別された色彩語を使用すると報告されている(Lakoff 1973)。実際に映画やテレビドラマには、こういった特徴が(時に誇張して)台詞に取り入れられているケースもある。しかし、これはあくまでも「他の社会集団と比較すると使用する頻度が高い」といった傾向にすぎず、その社会的属性に排他的な特徴ではないのである。

それでは、なぜ英語に役割語の要素は限定され、その数は乏しいのか。この問題について考えるにあたり、金水(2024)は以下のように説明している。

役割語が豊富な言語とあまり豊富とは言えない言語を比べてその要因を考える場合、言語構造(主として文法)の観点と、社会言語学的な観点の双方が必要である。前者に関しては金田(2011)が明らかにしているように、言語変異の作りやすさ・作りにくさが文法構造と関連していることを指している。すなわち、自称詞・対称詞の豊富さは、日本語が一致現象を持たないことと深く関連しているし、文末表現の豊富さは、SOV 言語でかつ膠着性が高いという典型的な特徴が関わっている。山口(2007)が、「日本語の役割語は足し算、英語の役割語は引き算」と言っているのはすなわち、日本語では統語論的制約がゆるいので主語や文末に自由度が高く、さまざまな語彙項目を付け足していくことが可能であるのに対し、英語の場合は厳しい統語論的制約を破る＝引き算によって変異体を作る方法が主流になるということを端的に表している。

### 2. 社会的マイノリティと結びつく英語の文法的特徴

それでは、フィクションにおける英語の話し言葉において、どのような要素が引かれるのだろうか。作品の受け手(視聴者)が発話全体の意味を理解する上でさほど支障をきたさないように、(語彙的要素ではなく)文法的要素でなければならない。英語は SVO の語順が固定化されており、また言語の類型は孤立型に近く、高度に屈折変化をしない。英語には屈折接辞が 8 つしかなく(1)参照)、この他にも(2)のような文法的要素(文法的自由形態素)が存在する。

#### (1) 英語の屈折接辞

- i. N-s (複数)
- ii. N-'s (所有)

(例は Meyer 2009 による)

e.g., *girl/girls*  
*the child's toy*

- iii. V-s (3人称単数現在) *He/she likes movies*
- iv. V-ing (進行形) *He/she is leaving*
- v. V-ed (過去形) *He/she talked for an hour*
- vi. V-ed (過去分詞) *He/she has talked for an hour*
- vii. ADJ-er (比較級) *mild/milder*
- viii. ADJ-est (最上級) *mild/mildest*

- (2) i. 冠詞 (*a, an, the*)
  - ii. 助動詞 auxiliary verbs (*be, have*)
  - iii. 接続詞 (*and, or, but*)
- (Meyer 2009)

実際に、この中のいくつかの文法的要素の脱落は、AAVE(アフリカ系アメリカ人の日常英語)やピジン英語など、現実の英語の変種にも観察され、また英語を母語として獲得する子どもや、外国語として学ぶ学習者が産出するデータにも観察される現象である。もしフィクションにその特徴を含む英語の台詞を話す登場人物が存在する場合、その人物はどのような社会的属性を持たされているのか。ストーリー上の行動評価はどうか。また、その人物が話す英語の台詞には他の **marked** な文法的特徴も観察されるのだろうか。

発表者は、アメリカで製作された映画やテレビドラマの中で「非標準的な」英語の台詞を話す人物が登場する作品をいくつか選び、台詞の分析を行った。その結果、これらの登場人物は、(3)に示すように、アメリカ社会においてマイノリティ・グループに属するキャラクターである傾向にあることがわかった。

- (3) ・アメリカ先住民 (ネイティブ・アメリカン、アメリカ・インディアン)
- ・移民 (外国人)
- ・アフリカ系アメリカ人
- ・アパラチア地方の白人(貧困層)

この4つの社会的マイノリティ・グループが話す英語の文法的特徴のパターンはさらに2つに分けることができ、その分類は英語を母語として話すか話さないかによる。英語(変種)を母語として話すのはアフリカ系アメリカ人とアパラチア地方の白人(貧困層)のグループ、母語として話さないのはアメリカ先住民と移民(外国人)のグループである。

## 2.1 <アメリカ先住民英語><移民(外国人)英語>

アメリカ先住民はもともと部族ごとに異なる固有の言語を話し、また移民(外国人)も母語として英語以外の言語を話す設定であるが、ストーリー上で白人の登場人物とコミュニケーションを取る際に英語を話す必要が出てくる。ネイティブ・スピーカーではないことから、白人が話す英語と差別化され、受け手(視聴者)には流暢さを欠いた「片言」の英語を話している印象を与えるように調整されている。その「片言」さは、音声的要素(話す速度を落とす、ポーズの回数を増やし、長くとる)に加え、上の(1)(2)で挙げたテンス、複数 {-s}、3人称単数現在 {-s} などの屈折接辞、冠詞や *be* 動詞などの助動詞といった文法的要素の脱落によって表現されている。(Meek 2006; 山木戸 2013, 2018)。

### (4) <アメリカ先住民英語>

- a. ~~Apaches are~~ not soldiers. ~~Apaches do~~ not sign ~~a~~ny paper to fight. (『ワイルド・アパッチ』  
「アパッチ 兵士違う 闘うのに 契約に署名しない」 ケ・ニ・タイ)
- b. I ~~aimed~~ for his head. (『ジェロニモ』ジェロニモ)  
「頭を狙ったつもりだ」
- c. Where ~~did~~ you hide Princess Tiger Lily? (『ピーター・パン』インディアン・チーフ)  
「私の娘をどこに隠した」

### (5) <移民(外国人)英語>

- a. I think maybe this man ~~killed~~ my wife. (『クローザー』中国人ウオンさん)



- 「きっと犯人です(この男がおそらく妻を殺したと思う)」
- b. This ~~is~~ Ping-Mei's friend An-Li. (『クローザー』中国人ウオンさん)  
 「(ピンメイの)友人のアンリーだ」
- c. No, they ~~are~~ not coming back. (『クローザー』日本人ケイコ)  
 「いいえ、2人は戻らない」
- d. Zoya ~~was~~ happy at first. (『クローザー』ロシア人ナディア)  
 「(ゾーヤは最初は喜んでた)」

また、否定語“not”が“no”に置き換わったり、＜アメリカ先住民英語＞では、主語の“I”の脱落、目的格“Me”や自身の名前(固有名詞)への置き換えも観察される。

(6) ＜アメリカ先住民英語＞

- a. **Me no** spoofum. (『ピーター・パン』インディアン・チーフ)  
 cf. **I am not spoofing** (you).  
 「冗談ではない」
- b. **Ke-Ni-Tay** sign paper. **Ke-Ni-Tay** soldier. (『ワイルド・アパッチ』ケ・ニ・タイ)  
 cf. **I signed the paper. I am a soldier.**  
 「ケ・ニ・タイ署名した ケ・ニ・タイ兵士」

(7) ＜移民(外国人)英語＞

- You **no** send me away. (『クローザー』中国人ウオンさん)  
 cf. **Don't** send me away.  
 「(中国に)帰さないで」

これらの文法的特徴は、簡略英語(ピジン英語)に共通して見られる(Meek 2006; 山木戸 2018)。

2.2 ＜アフリカ系アメリカ人英語＞＜アパラチア地方の白人(貧困層)英語＞

一方で、アフリカ系アメリカ人やアパラチア地方の白人貧困層の住民の登場人物にとって英語(変種)は母語であるため、極めて流暢に台詞を話す。彼らの台詞にもまた、複数 {-s} などの屈折接辞、*be* 動詞や完了の“have”など、文法的要素の脱落が観察される。これらの特徴は、現実のAAVE(アフリカ系アメリカ人の日常英語)やアパラチア地方の白人(貧困層)が話す英語変種の文法項目と一致している(Green 2002)。

(8) ＜アフリカ系アメリカ人英語＞

- a. I make 95 cents an hour. (『ヘルプ』白人家庭の家政婦 エイビリーン)  
 「時給95セントで」
- b. We ~~are~~ living in hell. (ibid.)  
 「ここは地獄だ」
- c. We ~~have~~ been in here half an hour. (『クローザー』ギャングの青年 Pookie)  
 「もう30分だぞ」

(9) ＜アパラチア地方の白人(貧困層)英語＞

- You know you ~~are~~ gonna be starving in 45 minutes anyway.  
 「---」 (『ヒルビリー・エレジー 郷愁の哀歌』近所の男性 脇役)

しかし、この文法的要素の脱落よりもずっと顕著に見られる特徴がある。多重否定、“ain't”の使用である。多重否定とは、1否定文において“don't”“no”“nothing”などの否定語を複数回使用する規則である。“ain't”は標準英語における*be*動詞の現在形否定(=“am/are/is not”)、完了“have”の現在形否定(=“have/has not (V<sub>PAST</sub>)”)の代わりに現れ、主語の人称に関わらず使用される。同様に、*be*動詞の過去形“was”、一般動詞の現在形否定を作る助動詞“don't”も主語の人称に関わらず使用される。これらもまた、現実のアフリカ系アメリカ人英語(AAVE)とアパラチア地方の白人(貧困層)が話す英語変種の文法項目に一致している(Green 2002)。

(10) <アフリカ系アメリカ人英語>

- a. Man, I **don't** have **nothing** 'cause there **ain't** **nothing** to give. (『クローザー』ギャングの青年 脇役)  
「本当に知らねえんだよ」
- b. I **ain't** heard **nothing** about **no** shooting. (ibid.)  
「(銃撃について何も)知らねえよ」
- c. But my friend was there and he said they **was** **dissing** me. (『クローザー』青年 Marcus)  
「友達が“断ればバカにする”って」
- d. But that **don't** make the gangs go away. (ibid.)  
「どこにでもギャングの連中がいる」

(11) <アパラチア地方の白人(貧困層)英語>

- a. Did you tell them dickhead bastards the three of them **ain't** worth one Vance? (『ヒルビリー・エレジー 郷愁の哀歌』主人公 Vance の祖母 Mamaw)  
「お前はクズ連中よりずっと価値がある」
- b. Who! And dry off! I **ain't** sitting next to that for three hours! (ibid.)  
「早く拭きな 血だらけだ」
- c. I **ain't** seen you since your Mamaw's funeral. (主人公の知人 Louis)  
「おばあさんの葬式以来だ」
- d. Why did J.D. think you **was** going to kill him? (主人公 Vance の祖母 Mamaw)  
「J.D.は“殺される”と 何をした？」
- e. It **ain't** **none** of my business. (『Songcatcher 歌追い人』主人公の友人 Tom)  
「俺には関係ないが--」
- f. I **ain't** **never** had a chance to learn **nothing**. (ふしだらな男性 脇役 Reese Kincaid)  
「俺は無学な男だ」

現実の AAVE やアパラチア方言の文法は複雑な体系を持つ。しかし、フィクションにおいては、作品の受け手(視聴者)に「アフリカ系アメリカ人標準的な英語を話さない」「アパラチア地方の貧困層の白人は標準的な英語を話さない」ということを示すために、標準英語の文法的要素を脱落させ、否定語を繰り返し、主語の人称と助動詞の一致を単純化するなど、受け手(視聴者)にとって分かりやすい項目を選択し、象徴的に取り入れているのである。

### 2.3 その他の文法的特徴

上に述べた特徴以外にも、台詞に観察された興味深い文法的特徴を一部紹介する。(12)(13)はどちらもディズニーのアニメーション映画に登場するアメリカ先住民のチーフ(首長)の台詞である。(12)における“(-)um”は他動詞(“turn”と“spoofo”)の直接目的語として、それぞれの動詞に付いている。

- (12) a. This time no turn-**um** loose. (『ピーター・パン』インディアン・チーフ)  
cf. This time I/we will not turn you loose.  
「今日は逃がさない」
- b. Me no spoofo**um**. (ibid.)  
cf. I am not spoofoing you.  
「冗談ではない」

Meek(2006)によると、この特徴は多くのアメリカ先住民の言語が形態的に多統合的語であることからきていると言う(山木戸 2018 も参照のこと)。「多統合的語」では、「文を構成するすべての要素が密接に結合して、文全体が一語のような形をして」おり(『現代言語学辞典』)、例えば動詞の主語や目的語などの要素も(語としてではなく)屈折接辞として表れる。

(13)では、縮約形の欠如が観察される。縮約形が使われなかったとしても文法的に間違っているわけではないが、標準アメリカ英語の話し言葉であれば縮約形を使うのが一般的であろう。

- (13) a. They do not want to talk. (『ポカホンタス』チーフ・パウアタン)  
 (don't)  
 「拒絶される」  
 b. Of course I would but it is not that simple. (ibid.)  
 (isn't)  
 「もちろん話すもう手遅れだ」

それでは、なぜインディアン・チーフの台詞にこの特徴が頻繁に出てくるのか。これは例えばシェイクスピア作品の平易化された英語にも見られるように、英語の古風な修辞法のイメージと結びつくようである。実際に、役者によっては、作品の舞台の歴史的要素や過去の時代設定を示すために、台詞の中にこの文法的特徴を意図的に取り入れることがあると言う。アメリカ先住民のキャラクターが登場する作品においても、この項目の使用はインディアンのテーマを扱う上で欠かせない歴史的要素と巧みに一致しているのである (Meek 2006; 山木戸 2018)。

最後に、アフリカ系アメリカ人の台詞に観察された「過剰修正」とも言える特徴を含む台詞を紹介する。

- (14) a. ... she ain't real keen on talking to white peoples right now. (『ヘルプ』エイビリーン)  
 「今は話せる状態では…」  
 b. We gots to get some more maids. (『ヘルプ』ミニー)  
 「もっと協力者を」

(14a)では“person”の複数形である“people”に複数の接辞 {-s} が、(14b)では“get”の過去形である“got”に接辞 {-s} が付いている。Labov (1991)によると(岩田・重光・村田 2013 より引用)、下層中流階級の人びとは、自身の「ことばのもつ社会的評価に敏感」であり、自分たちが使用する形の他に「正しい用法の基準」があることを認識し、文体が改まるほど意識して威信形を使う態度を持っていると言う。これは時として過剰修正を引き起こすが、実際に(14)のような台詞は、アフリカ系アメリカ人の家政婦役の登場人物が白人の主役に対して話すシーンで発せられたものであった(山木戸 2016)。

### 3. まとめ

本発表では、アメリカで製作された映画やテレビドラマにおいて観察される「非標準的な」英語の台詞の文法的な特徴を分析した。その結果、そのような台詞を話すように設定された登場人物の多くは、アメリカ社会におけるマイノリティの集団に属す傾向にあることが分かった。また、その人物がどのマイノリティの集団に属していても、台詞に観察される特徴の多くは共通しており、パターン化されている。具体的には、文法的要素(屈折接辞・助動詞)の消失、置き換え、多重否定、主語と助動詞の一致の単純化など、作品の受け手(視聴者)にとって分かりやすい項目が選択され、台詞に象徴的に取り入れられていることが分かった。

確かに、このような特徴的な言葉づかいは、フィクションにおける登場人物のキャラクター形成に有効であろう。その一方で、これらの特徴は文法的規範から外れているため、その社会的マイノリティの登場人物は「間違った英語を話している」「無教養である」といったネガティブな印象を作品の受け手(視聴者)に与える恐れがある。例えば、本発表においてケーススタディとして扱った『クローザー』という刑事ドラマ(舞台:ロサンゼルス)では、アフリカ系アメリカ人の刑事は標準的な英語を話すのに対し、殺人事件の重要参考人として取り調べを受けるようなアフリカ系アメリカ人のギャングの台詞には<アフリカ系アメリカ人英語>の文法的特徴がかなり高い頻度で見られる。<アメリカ先住民英語>を話す「インディアン」の登場人物も白人と戦闘態勢にあり、<アパラチア地方の白人(貧困層)英語>を話す登場人物も、貧困にあえぐ中、ドラッグ中毒などの深刻な問題を抱えている。こういった作品の存在が、社会的マイノリティの人たちは規範から外れた英語を話し、ネガティブな行動を取るという誤ったステレオタイプを強化し、彼らに対する偏見や差別を助長するのではないだろうか。

<参考文献>

- Green, L. J. (2002) *African American English: A Linguistic Introduction*. Cambridge: Cambridge Univ. Press.
- 岩田祐子・重光由加・村田泰美(2013)『概説 社会言語学』東京: ひつじ書房.
- 金田順平(2011)「第 7 章 要素に注目した役割語対照研究: 「キャラ語尾」は通言語的なりうるか」  
金水敏(編)『役割語研究の展開』(pp. 127-152), 東京: くろしお出版.
- 金水敏(2003)『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』東京: 岩波書店.
- 金水敏(2024)「日本語の役割語はなぜこんなに豊かなのか—文化的観点から考える—」『日本言語学会第 169 回大会予稿集』.
- Kinsui, S. and Yamakido, H. (2015) “Role Language and Character Language.” *Acta Linguistica Asiatica* 5(20): 29:42.
- Labov, W. (1991) *Sociolinguistics Patterns*. Philadelphia: University of Pennsylvania Press.
- Lakoff, R. (1973) “Language and Woman’s Place.” *Language in Society* 2(1): 45-80.
- Meek, B. A. (2006) “And the Injun Goes “How!”: Representations of American Indian English in White Public Space.” *Language in Society* 35: 93-128.
- Meyer, C. F. (2009) *Introducing English Linguistics*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 田中春美(編) (1988)『現代言語学辞典』東京: 成美堂.
- 山口治彦(2007)「役割語の個別性と普遍性 —日英の対照を通して—」金水敏(編)『役割語研究の地平』(pp. 9-25), 東京: くろしお出版.
- 山木戸浩子(2013)「英語に役割語は存在するのか?」『日本言語学会第 147 回大会予稿集』 pp. 554-559.
- 山木戸浩子(2016)「役割語としてのアフリカ系アメリカ人英語の文法について」金水敏(編)『役割語・キャラクター言語研究国際ワークショップ 2015 報告論集』(私家版) pp. 91-111.
- 山木戸浩子(2018)「ハリウッド映画におけるネイティブ・アメリカン(「インディアン」)の役割語について」『藤女子大学文学部紀要』 10: 85-124.

# 韓国語における役割語

## 話者の「社会的役割」に注目して

鄭 惠先 (北海道大学)

### 1. はじめに

鄭 (2007) では、対訳作品を用いた日韓役割語の対照分析から、「日本語では性別的な特徴、韓国語では年齢的な特徴が表われやすい」と主張した。本発表では、韓国語の対者敬語法の6等級の中から、hao体(하오체)とhage体(하계체)が持つ年齢的な特徴に注目し、これらの等級の話者特性、使用率の変遷について、従来の韓国の敬語研究を参考に考察する。その結果をもとに、「対者敬語法のhao体とhage体は、韓国語の老人語である」と明示的に提案するとともに、韓国語の役割語研究におけるこれらの敬語法の未来を展望する。

### 2. 鄭 (2007) での考察

鄭 (2007) では、韓国語の年齢的な特徴に関連して(4)(5)を例示している。例は、a. が原作で、b. が翻訳本である。

- (4) a. 가르쳐 주게.      b. 教えてくれ。  
(5) a. やめろよ              b. 관두쇼… (鄭2007:76から再掲)

(4a)の「-게(ge)」は韓国語の対者敬語法のhage体、(5b)の「-쇼(syo)」はhao体の命令形であるが、この韓国語文では、文末形式にhao体・hage体を意図的に用いることで、発話者が「中年男性」であることを暗示している(鄭2007:76)。日本語では、年齢を表す役割語として「老人語」「博士語」という用語が広く認知されている。これに関連して、金水(2014)には以下のような記述がある。

日本語の役割語でひとときわ精彩を放ち続けるものに〈老人語〉があります。〈老人語〉と〈書生語〉が複合した〈博士語〉もポピュラーカルチャー作品の中では盛んに用いられます(金水2014: ix)。

一方で、鄭(2007)では「韓国語には、日本語のような『博士語』といった特徴は見られないが、hao体、hage体といった話者の年齢層が限定される文末語尾が存在し、これが人物像を連想しやすくする役割語的な働きをしている(p. 77)」と述べるに留めた。この研究から20年弱の時間を経て、本発表では、hao体とhage体を韓国語における「老人語」とあるとあらためて同定する。ひいては、韓国語で昔の高位高官や老人を高めて言う「영감(令監、ヨンガム)」という呼称・名称を援用し、「영감 말투(ヨンガムことば)」と命名したい。

### 3. 韓国語の対者敬語法の6等級

韓国語の対者敬語法は、表1のように6等級に分類されることが多い。これらを日本で一般に使われている用語に当てはめると、表1の上から順に、上称、略待丁寧形(親しみ

を込めた上称)、中称、等称、略待普通形、下称とすることができる(李・李・蔡 2004:248)。前述した hao 体と hage 体は、この6等級のうち、尊待の hapsyo 体と haeyo 体、非尊待の hae 体と haera 体の中間に位置する語尾である。通常、最敬体の「ございませす」、敬体の「です/ます」、常体の「だ」の3等級に分けられることが多い日本語の対者敬語法に比べて(油谷 1991:121)、韓国語の対者敬語法は話者と聴者の関係によって使い分けられる等級がより細かく、平叙文、疑問文など、それぞれの文体によっても用いられる語尾の種類が多様で複雑である。

表1 韓国語の対者敬語法の6等級 (鄭2007:74を改変)

	平叙文	疑問文	命令文	勧誘文
hapsyo(합쇼)体	-ㅂ/습니다	-ㅂ/습니까	-(으)십시오	-(으)십시오
haeyo(해요)体	-아/어요	-아/어요	아/어요	-아/어요
hao(하오)体	-(으)오	-(으)오	-(으)오	-ㅂ/읍시다
hage(하계)体	-아/어네	-아/어나, - ㄴ/는가	-아/어게	-아/어게
hae(해)体	-아/어	-아/어	-아/어	-아/어
haera(해라)体	-ㄴ/는다	-냐, -니	-아/어라	-아/어자

(上に行くほど敬意が高い)

李・李・蔡(2004)には、hao体とhage体についてつぎのような記述がある。

(hage体では)話者の年齢も重要な役割を果たす。hage体は話者の権威を誇張するような感じを醸し出し、その分格式性が強いという特徴がある。そのために年齢を十分にとらないとhage体を使うのが気恥ずかしく感じられる(pp. 253-254)。

hao体はhage体と同様に格式性が表れる言葉遣いである。目上の人が目下の人を丁寧に遇するというのが、自然にある種の権威的な雰囲気醸し出し、格式性を生じさせるが、hao体は、それがhage体よりもさらに程度が強い(p. 256)。

上記の「権威」「格式性」という特徴は、日本語の「老人語」「博士語」にも相通じるところがある。本来、対者敬語法は聴者との関係にもとづいて使い分けられる言語形式で相対性が高いが、上記の引用と後述する韓国語の敬語にかかわる非言語要素の重要性から鑑みて、ステレオタイプを心理的基盤とする役割語の観点からhao体とhage体を考察することは妥当であると考えられる。

#### 4. 韓国語の敬語にかかわる非言語要素

日本語と韓国語はともに敬語が発達した言語として知られているが、「日本語の敬語は、社会関係や親疎関係を重視している相対敬語なのに対して、韓国語の敬語は、話し手と聞き手との年齢差を重視する絶対敬語だ」(曾 2003:107)というところに両者の違いが表われている。曾(2003:108)は、韓国語の絶対敬語の背景に「儒教の思想を基盤とする道徳観念」があると述べ、敬語にかかわる要素として「年齢や社会的地位など」をあげている。李・李・蔡(2004:265)でも、敬語法を決定するもっとも重要な非言語要素に「年齢」をあげ、これは言語だけでなく、いわゆる「長幼の序」の習慣を通して韓国社会のすべての生活で大きな役割を發揮すると述べている。

さらにここで特記したいのが、韓国の血縁関係による「序列的上下関係」の重要性と、親族という概念の幅の広さである。序列的上下関係とは、軍隊のような階級社会において、年齢より階級による上下関係が優先されることを指すのだが、伝統的な韓国社会では、親族間で世代を区別する「항렬 (行列、ハンニョル)」という基準があり、血縁関係における序列的上下関係を重んじる慣習がある。たとえば、「年上の甥と年下の叔父」のように、年齢が自分より幼くてもハンニョルが高い親族には敬語を使うといったことである。また、親族の概念も日本に比べると広く(韓・梅田2009:177)、婚姻による親族関係を含めてそれぞれの関係的特性を表わす親族名称や呼称の豊富さがその実態を物語る。このように、韓国では、流動的な親疎関係より、年齢や親族関係上の世代といった固定的な上下関係が話者の話し方に強い影響を与える。

つぎに、対者敬語法の6等級の使い分けに焦点を当てた先行研究を概観する。まず、李・李・蔡(2004:266)は、対者敬語法に話者と聴者の「絶対的な年齢」が大きく影響するとした上で、その絶対的な年齢の分岐点を「結婚する年齢程度」と示している。ただ、「軽さを好む現代の風潮」によって「この年齢が少しずつ高くなってきている」とも述べており、李・李・蔡(2004)の原著が1997年に発行されたことを勘案すると、そこから30年近く経っている現在では、その分岐点がさらに遅れていることが予想される。

また、이경우・김성월(2017)は、対者敬語法の等級の決定にかかわる非言語要素を夫婦間、親族関係、年齢、性別の4つに分け、各要素によって現れる敬語法の特徴を述べている。ここで言う親族関係には血縁だけでなく婚姻による関係も含まれており、このような話者と聴者の社会的役割が重要な要素であることがわかる。

さらに、서상준(1996)は、対者敬語法の使い分けに、年齢、性別、社会的身分、性格、普段の言葉づかいなど、話者と聴者の個別特性が強く影響すると述べている。なお、「話者の言葉づかいだけを聞いても、話者と聴者の年齢、身分、性別をおおむね推測できる」(p.24)といい、「役割語」という用語が使われているわけではないが、対者敬語法と話者の個別特性との密接な関連について言及している。

## 5. 時代によるhao体とhage体の衰退

ここから、対者敬語法の6等級の中でもhao体とhage体に焦点を当て、使用の通時的変遷と話者の特性という観点から、役割語としての様相について検証していく。이경우・김성월(2017)は、小説とTVドラマの脚本といったフィクション作品を対象として、時代別の対者敬語法の出現率を調べている。その結果が、表2のとおりである。

表2 時代別作品における対者敬語法の出現率 (이경우・김성월2017:75, 214, 263)

	hapsyo 体	haeyo 体	hao 体	hage 体	hae 体	haera 体
19世紀後期 古典小説*	4%	3.5%	21%	17%	4%	46%
1890~1920年 開化期新小説**	16%	5%	17%	19%	12%	30%
1997~2001年 TVドラマ	5%	28%	0.7%	0.9%	52.4%	13%
2005~2011年 TVドラマ	1.7%	38%	0.2%	0.6%	49.5%	10%

(表のほかに、極尊待形のhasoseo体がそれぞれ\*4.5%、\*\*3%出現している)

研究の詳細については原著に委ね、ここではhao体とhage体の出現率に注目する。表2から、19世紀後期から現代までの約150～160年の間に、hao体とhage体の使用が萎縮しつつあることは明らかである。一方で、尊待を表すhapsyo体、haeyo体、hao体の3等級の中ではhaeyo体の方向へ、非尊待を表すhage体、hae体、haera体の3等級の中ではhae体の方向へと、使用が集中する傾向が著しい。

韓国語の対者敬語法では、尊待、非尊待という盾の対立だけでなく、格式と非格式という横の対立も意識され、等級の使い分けが複雑に細分化されている。これに対して、李・李・蔡(2004:260)は、対者敬語法の「6等級は、2等級ずつ対称をなしている」とし、上称のhapsyo体と下称のhaera体を「両極の2等級」、略待形のhaeyo体とhae体を「格式性を減じた2等級」、中称のhao体と等称のhage体を「副次的な2等級」の3つの段階に再分類している。これらの特徴をまとめて整理したのが表3である。

表3 韓国語の対者敬語法の分類

	尊待	非尊待	3段階分類 (李・李・蔡2004:260)
格式	hapsyo体(上称)	haera体(下称)	第1段階 両極の2等級
	hao体(中称)	hage体(等称)	第2段階 副次的な2等級
非格式	haeyo体(略待丁寧形)	hae体(略待普通形)	第3段階 格式性を減じた2等級

このような「全体的に複雑に細分化された敬語法の体系を単純化しようという趨勢」(李・李・蔡2004:255)の背景には、社会構造の変化によって敬語を用いる相手の上下を細分化しにくくなったこと、「軽さを好む現代の風潮」によって非格式体への統合が進んだことがあると考える。このような時代の変化の中で、서정수(1984)は「若い世代はhao体を別途用いる必要性をほとんど感じない。それを使う年齢層と状況はごく一部に限られる」(p.42)と述べ、hao体とhage体をほかの4等級と完全に切り離して「特殊形態」と名づけている(서정수1984:231)。

その反面、李・李・蔡(2004:260)は、対者敬語法について「それぞれの固有領域と機能があり、まだ厳然と明白に維持されている」とも述べており、6等級において「単純化」と「固有領域の維持」という相反する側面が同時に見られる状況について言及している。次節では、現代韓国語におけるhao体とhage体の「使用層の減少」という通時的な変化ではなく、役割語としての「固有領域と機能」について詳しく考察する。

## 6. 「老人語」のhao体・hage体

이경우・김성월(2017)では、韓国のTVドラマに表われる対者敬語法を、①夫婦(男女)、②親族関係、③婚姻による親族関係、④他人(職場)関係の4つに分けて細かく分析している。その中から、hao体とhage体が出現した話者と聴者の関係的特性をまとめたのが表4である。



表4 TVドラマに表われる hao 体と hage 体 (이경우・김성월 2017 を援用)

時期	等級	話者と聴者の関係的特性
1997～2001年 放映ドラマ	hao 体	50代以上夫婦間、50代以上母→息子、50～60代弟→姉、 40～50代妹→姉、父母→義理の娘
	hage 体	祖母→義理の孫、母→義理の娘、父母→義理の息子、50～ 60代姉→義理の妹、20～30代兄→義理の妹、姉夫→義理 の従弟、40～50代男友達同士
2005～2011年 放映ドラマ	hao 体	50代以上夫→妻、50代以上息子→母
	hage 体	父→義理の息子、 <u>年配の男上司→女部下</u> 、 <u>男先輩→女後 輩</u> 、 <u>女先輩→女後輩</u>

40代以上の話者によって、ほとんどが親族関係で、とりわけhage体は婚姻による親族間で多く用いられていることがわかる。ちなみに、下線部のhage体は法曹界が背景のドラマでの出現例で、冒頭で述べた「権威的で格式ばった」職業のイメージが言葉づかいに反映された結果だと考えていいだろう。

hao体とhage体を韓国語における「老人語」と命名するにあたって、나동숙 (2018) は有効な先行研究である。나동숙 (2018) は、hao体とhage体の消滅が議論になる中でも、実際はさまざまな媒体のコンテンツで、今も依然としてhao体・hage体が使われていると主張する。そして、小中学校の国語教科書などの分析を通して、hao体とhage体が「時代的背景と登場人物間の身分、社会的関係における違いを表す『表紙』として用いられる」(p. 1) 実態を明らかにしている。さらに、hao体とhage体には「韓国語母語話者が共有する共通の背景情報」からなる「使用文脈の典型性」があると述べているが (p. i - ii)、これは、役割語における「言語のステレオタイプ」(金水2014: vii)、「話し方と人物像を結びつける知識」 (金水2014: v) といった定義にも一脈相通じる。

また、나동숙 (2018) では、hao体・hage体の戦略的な用法として、①等級シフトによる心理的な距離感、②時間的空間的背景が過去、③詩的情緒、④キャラクタ創造、の4つの「表紙」機能を打ち出している。hao体・hage体には、それでなければ表現できないキャラクタ上の典型性があり、とくに小説などで登場人物のキャラクタを表現する装置として使われる (p. 147)。「役割語」とは明示していないものの、このキャラクタ創造の「表紙」を「役割語」に当てはめることは十分可能であろう。

以上の考察から、現代韓国語で減少傾向にあるhao体とhage体が固有の使用領域を持ち、フィクション作品などで話者の属性や社会的身分を暗示するツールとして機能している現状が明らかになった。そこで、本発表では、hao体・hage体が「権威的な老人」「格式ばった社会的役割」といった人物像と結びついた韓国語の「老人語」であると主張し、新たに「영감 말투 (ヨンガムことば)」という役割語のラベル付けを提案したい。

一方で、映画やドラマなどのフィクション作品の中で、hao体・hage体は現代の言葉づかいと対比される古いことばの「標識」として認知されることが多い。나동숙 (2018) でも、hao体・hage体が主に昔話や民話などのテキストで用いられ、ほとんどの場合、時間的空間的背景が過去であることを表わすと述べている。そんな中で、hao体とhage体を「老人語」と限定していいのかという疑問も残る。このような現状から、hao体・hage体の具体的な命名についての検討は、今後も継続していきたいと考える。

## 7. 今後の展望

近年、韓国では、ネットから生まれた新造語として「~체 (体)」という用語を目にすることが少なくない。若者ことばを表わす「급식체 (給食体)」、日本で言う「オヤジ構文」に近い「아재체 (オヤジ体)」などである。2009年のアジア経済新聞のウェブ記事には、「ネットユーザーの間でそれなりの礼儀と格式を備えて用いることば」として「하오체 (hao 体)」が紹介されており、現実社会で消滅の一途をたどる hao 体が、SNS などでは新しいデジタル言語として生まれ変わっている現状が映し出されている。

また、2022年のマネトゥデーのウェブ記事には、AIによる韓国語の文体変換データセット「SmileStyle」についての紹介があり、その中の「老人」「王様」「ゾンビ (文士)」キャラクターの言葉づかいに、主にhao体とhage体が当てられていることが確認できる。

今後、hao体・hage体を役割語として継続的に考察していく上で、これらのデジタル言語の様相と言語生成AIにかかわる動向などにも目を向け、さらに綿密に検討していく必要があると考える。

## 参考文献

- 李翊燮・李相億・蔡琬 (2004) 梅田博之監修 前田真彦訳『韓国語概説』大修館書店
- 金水敏編 (2014) 『〈役割語〉小辞典』研究社
- 曹美庚 (2003) 「日本語と韓国語における敬語表現の比較」人間環境学研究2-1、pp. 105-118
- 鄭惠先 (2007) 「日韓対照役割語研究—その可能性を探る—」金水敏編『役割語研究の地平』くろしお出版、pp. 71-93
- 韓美卿・梅田博之 (2009) 『韓国語の敬語入門—テレビドラマで学ぶ日韓の敬語比較—』大修館書店
- 油谷幸利 (1991) 「일본인이 본 한국어 경어법 [日本人が見た韓国語敬語法]」국립국어연구원 [国立国語研究院] 『새국어생활 [新しい国語生活]』1-3、pp. 117-125
- 나동숙 (2018) 「현대 한국어 하오체・하계체의 사용양상과 문화적 문식성 고찰 [現代韓国語のhao体・hage体の使用様相と文化的文識性]」한성대학교박사학위논문 [漢城大學校博士学位論文]
- 서정수 (1984) 『존대법의 연구 현행대우법의 체계와 문제점 [尊待法の研究 現行待遇法の体系と問題点]』한신문화사 [ハンシン文化社]
- 이경우・김성월 (2017) 「한국어 경어법의 사회언어학적 연구 [韓国語敬語法の社会言語学的研究]」도서출판역락 [図書出版亦樂]
- (온라인 세상) '종결어미'의 진화를 아시나요?-아시아경제 [(オンライン世界) '終結語尾'の進化を知ってますか? | アジア経済] 2009. 11. 17  
<http://www.asiae.co.kr/news/view.htm?idxno=2009111610262794188> (2024/10/30 アクセス)
- “몇살이나” 입력하니 “춘추는 어떻게”..17 개 말투로 AI가 바꿔준다-머니투데이 [“年はいくつ?”と入力すると“ご年齢はおいくつですか” AIが17種の言葉づかいに変換してくれる | マネトゥデー] 2022. 06. 27  
<https://news.mt.co.kr/mtview.php?no=2022062615543011790> (2024/10/30 アクセス)

# 中国語における役割語—役割語と文化運動

國學院大學 河崎みゆき

## 1. はじめに

現代中国語は、日本語と比べ役割語（金水 2003）が豊富とは言えず、気づかれにくい言語である。その理由としては、SVO 言語で文法機能が語順で示され、孤立語であるため形態変化がなく、繋辞や文末の語気助詞の数も日本語に比べて少ないということにも関係していると考えられる。そのため、日本語と同じように言語構造の面から役割語にアプローチしてみると、得られるものが少ないということになる。本発表では、中国語における役割語を概観しつつ、現代中国語形成の始まりといわれる五四運動と役割語の関係について考察する。

## 2. 中国語における役割語

河崎（2017、2024）では①中国語の方言と人物像、②中国伝統の「役割語」（官僚ことば、オネエことば、学生ことば）、③非言語行動と人物像、④非言語成語（体態成語）と人物像、⑤命名と人物像、⑥ネット上のキャラ現象とことば、⑦「役割語」のリソースとしての中国の小学校語文（国語）教科書という観点から中国語の役割語にアプローチした。

その結果、①中国語にも毛沢東と湖南語や、商人キャラと広東語などといった方言と人物イメージの結びつきは存在し、②中国伝統の「役割語」として「官腔（官僚ことば）」、「娘娘腔（オネエことば）」、「学生腔（インテリことば・学生ことば）」などがあることがわかった。そうした「～腔」は口調を表すと同時に、人物そのもの表しており、言語面の特徴と、非言語面の特徴が存在し、つまり③非言語行動が、人物と結びついた一種の役割語つまり「役割しぐさ」になっているものがある。また④中国語には人の動作が成語の中に閉じ込められた「体態（非言語）成語」があり、これは定延（2011:117）の「表現キャラクタ」（「ことばが動作を表す際に、その動作の行い手のキャラクタまで暗に示す」という結びつき方）に相当するものである。次に⑤名前にも性差や時代性、そして地域性も一部存在しており、ドラマの脚本家たちは、そうした知識を利用して登場人物を命名し、かつ名前が「人物の属性や役割」を暗示している場合が見られる。中国四大奇書の一つである、清の曹雪芹『紅樓夢』の登場人物たちの名前が、性格や役割と暗示する暗喩として使用されていること（例えば、賈雨村という人物は、假語存[偽の語りが存する]と同音）は知られているが、現代のドラマにもその手法が用いられ、名前が視聴者に役柄をイメージさせる一種の「役割語」として機能している。⑥中国版「X」である微博（ウェイボー）では、人々が皇帝や皇后キャラ、犬猫キャラ、また宇宙人キャラなどに「キャラ変わり」し、そのキャラクターが言いそうなフレーズとセットで、賑やかなコミュニケーション

ョンを繰り広げている。また相手を「班長大人」などと高位に持ち上げることで、日本語に比べ敬語表現の少ない現代中国語において、その不足を補っている。最後に⑦「役割語」のリソースとして、1980年代の中国の小学校語文（国語）教科書と2010年代の国語教科書の比較分析を行ったが、時代により語彙や登場人物の特徴に変化があるものの、引き継がれる物語もあり、低学年の教科書には子ども修辭法と呼べるものや、大人のことば遣いとは違う子どもらしさを表すための子ども文法があることを指摘した。つまり大人と子どももの「多重文法」が存在しているのである。

### 3. 五四運動と現代中国語の形成

1919年に日本からの21か条の締結に反発して始まった五四運動は、北京の学生たちを中心に、反日・反帝国主義運動から、封建主義・儒家思想の批判、女性解放運動や白話文運動（中国の文言一致運動）を内包しながら大衆へと広がって行った（野沢・田中（1978）。こうした背景の下、五四運動は現代中国語の形成の発端とも言われ、その後、大衆語ひいては普通話（共通語）へとつながっていく（習晏斌 2006、船引 2004）。当時の白話文（口語文体）は、旧白話体の伝統や、文言文（古文）の伝統、日本語を含む外国語の語彙・文法・言い回しなど外来的表現を摂取しながら現代中国語の基礎を築いていった（大原 1994）。この時代、西洋の学問・思想の吸収や翻訳などにより、ことばの「欧化現象」が起きた。例えば「科学」などの名詞の形容詞化や、連用修飾語に“地（的）”を伴って作られる副詞の増大など、語法にも影響を受けている（大河内 1961）。三人称では「他」が彼、彼女を表していたが、she（彼女）を意味する女偏の「她」が生まれたのもこの頃である（黄興濤著・孫鹿訳 2021）。

このように五四運動や白話文運動が現代中国語形成に与えた影響は大きく、少なからず役割語の構築にも関係していると考えられる。本発表では以下、敬語の衰退、胡適の「文学改良芻議」、および白話文運動と教科書の問題を通じて、役割語との関係を考察する。

### 4. 中国における敬語の衰退

現在、中国語における敬語表現は、①呼称、②言い換え（語彙的手段）：大作、拙作、③接辞をつける（接辞的手段）：貴、大、高の尊辞、小、下などの謙辞、④構文にかかわる（構文的手段）：请、拜、奉、承蒙、などがわずかに残るのみで、「请」以外は、「无可奉告（何も申し上げることはありません）」などのようなフレーズ化したものがほとんどで、自由に動詞に結びつくことはない。

彭国耀（2000）は14世紀～20世紀の長編小説（30本）を対象に敬語使用の変化を調べ、19世紀末から20世紀初頭にかけて敬辞は急激に衰退していると指摘する。伝統的な敬語体系は儒教の価値体系によって支えられており、四書五経などの儒教典籍の学習によって伝承されていた。しかし、1905年に「科挙制度」が廃止され、清王朝の崩壊後、西洋啓蒙主義教育の影響や、「独立救国」の民族教育、そして人民共和国成立後は共産主義のイデオロギ

一教育へと変遷するうち、儒教典籍は一般教科から遠ざけられ、伝統的な礼法にかかわる知識体系の継承が途絶えてしまい、敬語表現の伝授も 20 世紀半ばにはほとんど消失したと言う。もし、こうした封建社会を背景にした中国語の敬語体系がそのまま存続していたなら、人物を表す役割語としての豊富さとしても機能していたはずである。

河崎（2017、2024）では、第 7 章で、近年ホテルや豪華マンションに「御、君、皇」などの文字が使われる再封建化が見られること、第 8 章で、ネットの「キャラ替わり」現象が、中国語の敬語不足の穴を補填する「和諧敬語（ハーモニー敬語）」として働いていることを指摘した。経済の発展につれサービス産業が発達し、漢服の流行などに見られる復古の潮流とも相まって、ある程度の敬語の復活や増加が生じると考えられる。

## 5. 胡適の白話文運動と官腔（官僚ことば）・学生腔（学生ことば、インテリことば）

1917 年に胡適が雑誌『新青年』に「文学改良芻議」（胡適 1917）を発表し、白話文運動の口火を切ったと言われる。その主な内容は、これまでの文言文（古文）が典故や、常套語を多用し、陳腐な物に陥っていることを改め、時代時代にふさわしい独自の文学を生み出す必要があり、俗字俗語を交えて大衆にもわかりやすい文学を創造するべきということである。以下の八項目である。

- 一曰、須言之有物。（意味のあることを書き、内容のない文を書かないこと）
- 二曰、不摹倣古人。（時代にあった文学を創造し、古人の真似をしないこと）
- 三曰、須講求文法。（文法に合ったことを書くこと）
- 四曰、不作無病之呻吟。（病気でもないのに呻吟するような文を書かないこと）。
- 五曰、務去爛調套語。（陳腐な常套語を用いないこと）
- 六曰、不用典。（典故を使用しないこと）
- 七曰、不講對仗。（対偶を重視しないこと）
- 八曰、不避俗字俗語。（俗語俗字を回避しないこと）

河崎（2017、2024）第 4 章において、官僚ことばや学生・インテリことばの特徴を考察したが、それは「中身のない話、無駄話、常套句、曖昧、激昂、虚飾、不実、叱責、典故の多用」といったことである。新文学革命を目指す「芻議」の二、三は、「官僚ことば」「学生ことば」とは直接には関連しないが、ほかの弊害は酷似している。胡適の「芻議」を受け、同じ号に陳独秀（1917）が「文学革命論」を書き、「貴族的な文学を廃し、平易で抒情的な」国民文学、写実文学、社会文学を造ろうと主張している。

ドラマの観察によるインテリことばの特徴では、現代の青春ドラマにおいてさえ、脚本家はインテリ性を表すために、登場人物に四書五経や唐宋詞をそらんじさせている。白話文運動で排斥された貴族性、官僚性がインテリことばとクロスしている。

## 6. 白話文運動と国語教科書

河崎（2017、2024）では、現代の中国語国語教科書の分析（第9章）を行い、1）子どもことば文法と2）子どもことば修辞法があることを指摘した。例えば

1）子どもことばの文法

①AA 的（形容詞重ね型）小小的船 弯弯的月儿 小さいお船 湾曲したお月さま

②V 啊, V 啊 / V 着, V 着式（動詞隔離式の連用）

蜻蜓飞呀飞, 飞过青青的假山（トンボは飛んで飛んで、青い築山を越えて行きました）

といった「動詞+啊（呀）」や「動詞+着」が単なる動作の繰り返しではなく、時間の経過を表し、大人の「書きことば」であれば「爬山涉水（山を越え、海を越え）」などと言った成語や慣用句を使用する（話ことばでは使用される）。つまり、異なる年齢層の異なる「文法」があるのである。他には

③小 X （X は動物や植物の名詞）で小さくて可愛い、

例）「小松鼠（こりす）小猴子 小兔 小猫 小狗 小鱼儿 小燕子 小熊 小鸡」

といった動物だけでなく、「小飞机（小さい飛行機） 小水珠（しずくちゃん） 小雨点（雨ちゃん） 小树（小さい木） 小花（小さい花）」と言った自然や人工物まで存在している。

次に、

2）子どもことば修辞には、①なぞなぞや②質問の旅形式（日本の「ネズミの嫁入り」のような構造）のお話がある。

白話文による国語教育の必要性は19世紀の終わりから提唱されていた。子どもの生活に近づいた、わかりやすく興味を持たせる内容でなければならぬと考えられたのである。清末の白話国語教科書は、例えば、文語文で本文が書かれ、白話文の翻訳が施されている。

1919年に商務印書館から出版された文言文教科書『共和国教科書新国文』は影響力の高い教科書で、規範的な文語文で書かれていた。内容は子どもの生活に近づいているとはいえ、例えば「読書」と題する課では、

学生入校、先生曰‘爾来何事’。学生曰、‘奉父母之命、来此読書’。先生曰、‘善。人不読書、不能成人’

（学生、校に入れば、先生曰く「なんじ何事にて来たる」。学生曰く「父母の命を受けて、此処に書を読みに来たる」。先生曰く「善き。人読書せざれば、人となる能わず」）

と書かれ、実際の生徒や教師が話すことばとはかけ離れていた。一方、同年、商務印書館から出された『新体国語教科書』では白話文が採用され、第37課では

「小猫 我这里有魚 又有飯 你要吃麼」（小猫ちゃん ここにお魚があるよ

ご飯もあるし 食べたくない?）」

といった内容になり、ことばも実際の生活と距離がなかった（鄭国民 2000）という。

これらの教科書は今回入手できなかったが、12年後の1932年に聖陶編、豊子凱の挿絵で出版された《小学初級学生用開明国語課本》の復刻版を見ると、1)の①は「月亮船（月の舟）」としてほぼ同じ内容の課があり、現代のような歌の歌詞的なリズムではなく文章で表されている。また、②は「飛飛飛」の形で存在し、③「小 X」は現代の教科書ほどは多くはないものも、「小草（くさちゃん）」（第47課）、「小鶏（ひよこちゃん）」（第19、20、21課）、「（雨点（あまつぶ）」（第29課）、「小狗（こいぬちゃん）」（第34課）、「小金魚（金魚ちゃん）、小鯉魚（鯉ちゃん）小鯽魚（フナちゃん）」（第136、137課）などの例が見つかる。

次に2)の子どもことば修辞法として①なぞなぞ「十个朋友」（第93課）、②質問の旅形式の話には、「麻雀問〇〇（雀が〇〇に聞いた）」シリーズ（第70—73課）や、小鳥の話（第98—101）が存在しており、文体を変えながらもその80年後にも受け継がれていることがわかる。

## 7. まとめ

20世紀初頭の五四運動は、反帝国主義・反封建主義運動のみならず、女性解放、白話文運動など精神・文化的な運動にも発展し、文言文（古文）を捨てることで、新たに現代中国語が形成されていくことになった。清王朝の崩壊や科擧の廃止によって、儒教經典に基づく敬語体系は衰退してゆき、日本語のような上下関係に関わる役割語の生成には不利になった。また、胡適や陳独秀が文学革命で退けようとしたものは、まさしく、封建貴族的・官僚的な文章であったのである。しかしながら常套句、不誠実、形式美を重んじる官僚ことばや典故を多用するインテリことばは、百年後にもすっかり消滅してはいない。また、白話文運動は、国語教科書（語文教科書）の白話化を促し、子どもたちの生活に近づいた内容や表現を採用するようになった。今の国語教科書の中で内容的に引き継がれている物語の形式もあり、子どもらしいことばの表現も、形を変えながらも工夫され生きている。白話文運動が起きることなく文語文の教科書のままであったなら、こうした子どもらしいことば生まれ難かっただろう。

本発表では、五四運動が女性ことばに与えた影響や、欧化現象と役割語という問題、またその後の文化大革命や改革開放がどのようにことばを変えていき、人々のことばのステレオタイプに影響を与えたかと言った問題には触れることはできなかった。今後の課題としたい。

## 参考文献

(日本語)

- 大河内康憲 (1961) 「最近の書面語から見た五四の白話文」『中国語学』108号.
- 大原信一 (1993) 「白話文の欧化」『同志社外国文学研究』66号 pp. 90-106.
- 河崎みゆき (2024) 『中国語の役割語研究』ひつじ書房.
- 金水 敏 (2003) 『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店.
- 黄興濤著・孫鹿訳 (2021) 『「她」という文化史—中国語女性代名詞の誕生』汲古書院.
- 定延利之 (2011) 『日本語社会のぞきキャラくり 顔つき・カラダつき・ことばつき』三省堂.
- 野沢豊・田中正俊 (1978) 『講座中国近現代史 4 五・四運動』東京大学出版会.
- 船引一乗 (2004) 「民国初期における国語の形成—胡適・黎錦熙を中心として」『佛教大学大学院紀要』第32号 pp. 57-70.
- 彭国躍 (2000) 『近代中国語の敬語システム—「陰陽」文化認知モデル』白帝社.

(中国語)

- 胡適 (1917) 文学改良芻議, 季羨林主編《胡適全集》安徽教育出版社、第一卷 pp5-15.
- 陳独秀(1917) 文学革命論, 季羨林主編《胡適全集》安徽教育出版社、第一卷 pp16-25.
- 河崎深雪 (2017) 《汉语“角色语言”研究》商務印書館.
- 習晏斌 (2006) 《現代漢語史概論》北京大学出版社.
- 叶聖陶編、豊子凱挿絵 (1932) 《小学初級学生用開明国語課本》上冊、上海科学技術文献出版社.
- 鄭国民 (2000) 《從文言文教学到白話文教学——我国近現代語文教育的变革歷程》北京師範大学出版社.



# ドイツ語における役割語

## 「言語意識史」の観点から

細川 裕史（阪南大学）

### 1. はじめに

- ドイツ語は英語と同様に、日本語ほど自由には役割語の創造ができない
  - その一方で、外国製コミックの翻訳文化があり、翻訳を通じた外来役割語がみられる  
(Vgl. 山口 2007; 細川 2011)

### 2. ドイツ語における役割語

- 役割語の指標 (Vgl. 金水2003)
    - a) 人称代名詞：1人称代名詞は“ich/wir”、2人称代名詞は“du/ihr”、“Sie/Sie”に制限される
      - < 幼児ことば >：1人称代名詞の代わりに発話者の固有名詞を使用する例
        - 脇役 (例 1、例 2) にはみられるが、主人公 (例 3) にはみられない
      - 1) Oda Papa auch liebhabbe[.] (Lindenau o. J.: 39 下線筆者、以下同様)
      - 2) Oda nein zugucke will, Oda Fußballspiele[.] (Ebd.: 46)
      - 3) Ich hole mir ganz viele Sterne, ...um Papa bei der Mission zu helfen!\*  
(Endo 2022: o. S.)
    - < 昔話ことば >：時代標識のついた2人称代名詞を使用する例
    - 4) [...] – sagt doch, Herr Pineiß! habt Ihr noch nie etwa den Wunsch verspürt, Euch zu verehelichen, ehrbar und vorteilhaft? (Keller 2007: 249)
- b) 文末表現：話しことば性は高いが、役割語度は低い (例 5、例 6)
  - 5) Wohl schon betrunken, was? (Brösel 2020: 56)
  - 6) Nee, nu nich mehr, Mann! (Ebd.: 29)
  - < ネコことば >：日本製コミックの翻訳
  - 7) I... ich bin... ein Versager, miau! (Konishi 2016: o. S.)
- c) 音声的な要素：発話者の体格や人種と結びついた例がみられる
  - < 巨漢ことば >
  - 8) Hos nech gehöeet?! Du soss Beschoid sog'n!!! [...] Ech soch das nech gääne zwoimooo!!! (Brösel 2019b: 71)
  - < 黒人ことば >
  - 9) Ich bin 'uinie't. Übe'all hat die Mafia ih'e Finge' d'in. [...] Ich geh zu'üeck in die Ka'ibik und we'd Pi'at! (2019c: 34-35)
  - < 日本人ことば >
  - 10) Dassu fureutu michu. (Siebold 2016: 38)
  - 11) Moin, Korrege. (Ebd.: 181)

---

\* コミックのセリフに関しては、すべて大文字で書かれ句読点が置かれませんが、読みやすさを考慮して、正書法にしたがい大文字と小文字を分けて表記し句読点をあてた。

d) 特定の語彙の使用：外国語や外来語を（頻繁に）使用することで

特定の人物像を想起させる例がみられる

< 英国貴族ことば >

12) Caroline. Mylord! ein Irrthum der in einem Gasthofe leicht möglich ist. [...] Wild [...] Mylady, darf ich? – Mylady – [...] aber Mylady – ich bleibe ja hier. – Und wenn Sie eine Engländerin sind wie man mir gesagt hat, wenn Sie – Caroline. [...] Mylord, darf ich bitten, mit wem habe ich die Ehre zu reden? Mein Vater wird sich sehr freuen einen Landsmann zu sehen. Wild. Ihr Vater? Miß! Haben Sie einen Vater? – [...] (Klinger 1998: 25)

< 日本人ことば >

13) Chikushō! ( Siebold 2016: 36 )  
14) Dōmo arigatō gozaimashita. (Ebd.: 318)

### 3. 「言語意識史」の観点からみた役割語

— (ヴァーチャルなものではない) 言語・言語変種に関しては、ドイツ語圏においても、  
発話者のアイデンティティや言語意識と関連づけた研究が行われている  
( Vgl. Thim-Mabrey 2003; Löffler 2010 )

- ・言語意識：ある個人あるいは集団のメタ言語的知識の総体
- ・「言語アイデンティティ」：言語と結びついた言語使用者のアイデンティティ
- ・「言語によるアイデンティティ」：言語使用によって構成されるアイデンティティ

表：言語意識のマトリクス ( Vgl. Scharloth 2005; 細川 2009 )

	メタ言語的付随意識	日常的な言語意識	学問的な言語意識
言語構造に関する知識			
語用論的な知識			
社会言語学的な知識			

→ 役割語度：聞き手・読み手が抱いている、言語・言語変種の  
社会シンボル機能に関する ( 社会言語学的な ) 日常的な言語意識に依存している

— Löffler (2010)における言語変種の分類カテゴリー：

「性差」や「年齢・世代」, 「社会集団」, 「地域」, 「個人の帰属意識」など

→ ただし、「人間以外」の役割語は含まれない ( < 宇宙人ことば >、< 動物ことば > など )

→ 使用期間ごとの分類：「時期的な ( transitorisch ) 変種」( 人生の一時期 )

「一時的な ( temporär ) 変種」( 特定の状況下 ) 「慣習的な ( habituell ) 変種」

### 3.1. 地域方言と役割語

- 「役割語度 0」の地域方言：日常における自然な会話を描くための地域方言  
(Hauptmann [2008]におけるベルリン [例 15] Brösel [2019a]におけるキール [例 16])
  - 15) WEHRHAHN [...] Es ist doch sonst in der letzten Zeit hier nicht das Jeringste vorjekommen.  
KRÜGER [...] Was? Nicht das keringste. Du lieber Chott! Dann steh ich vielleicht zum Spaße hier? (Hauptmann 2008: 27)
  - 16) „Werner, du bist ein Querulant, ha ha ha – wiss’n Schluck Bier?“  
„Wat giffat dat dor to högen? Eckat, dat harr ik nich vun di dacht, so een Blamoosch!“  
(Brösel 2019a: 113)
  
- 文学作品を解釈する際の指標：  
「地域方言や社会方言によるキャラクター付け」(Gelfert 1993: 101)
  - 地域方言は、使用範囲が限られているため、  
多くの読者にとっては特定の地域や社会層などのイメージと結びつきやすい  
(Vgl. Mattheier 1993; Eroms 2003)
  - 他地域出身の読者のために、人工方言 (Kunstdialekt) が使用されることもある  
<田舎ことば>：市民社会に属さない無教養な人々を想起させる地域方言
    - 標準語と対比的に描かれる (例 17)
    - 市民社会に受け入れられた者は<田舎ことば>を話さない (例 18、例 19)
  - 17) „Joa, diss’ Hratscheck... he kümmt joa nu wedder ’rut.“ [...] „Ja, Mutter Jeschke [...] he kümmt nu wedder ’rut. Das heißt, er kommt wieder ’raus, [...].“  
(Fontane 2012: 61)
  - 18) Ja, ja, da drunten an der See bei euch; wir sind nit wieder hinkommen; [...] (Storm 1993: 56)
  - 19) Mein Gott, die hat der Schulz im Dorf uns abgenommen! (Ebd.: 57)
  
- 日本製コミックの翻訳を通じた地域方言の役割語化
  - a) <田舎ことば>：ベルリン方言
    - 20) Komi-san geht zu Sabowey?! D... Dit is die Gelegenhait! Ik werd mir abgucken, wie se dit macht... (Oda 2022: 71)
  - b) <ヤクザことば>：シュヴァーベン方言
    - 翻訳者は「粗野な広島弁」と考えている
    - 21) „Hey, mach koin Ärger, Mudder! Dr Gloine Jiraya hat koi Wahl kett.“  
„Halt Gosch, Vadder!“ (Kishimoto 2010: 109)
  - c) キャラ語尾：低地ドイツ語
    - 翻訳者はキャラ語尾 (「だに」「じゃぜ」) を「北日本の方言」と考えている
    - 22) „Hahaha, dat maakt nix. Ik kann de Bagaasch föer Meister Tsuchikage dregen!“  
„Pack dat nich an, Aka-Tsuchi! Ik bruuk keen Hülpe!“ (Kishimoto 2011: 7)

### 3.2. 「標準語」と役割語

- 19世紀を通じて超地域的な書きことばが普及し、
  - 地域方言が「無教養」や「時代遅れ」という否定的なイメージと結びつくようになる
  - しかし、日常的な話しことばにおいては（現在も）地域方言が使用されつづける  
(Vgl. Mattheier 1991, 1997)
  - 地域方言が主人公の話す言語変種（「役割語度0」）の場合、  
「標準語」が役割語として機能する
- <権力者ことば>：社会的な地位と結びついた「標準語」
- 23) WEHRHAHN. Was ist das für'n Lappen? Zeigen Sie mal.  
FRAU WOLFF. Das hängt mit der Pelzgeschichte zusammen. Heeßt das: Herr Krieger is eben der Meinung.  
WEHRHAHN. Was ist denn drin in dem Lappen, was?  
FRAU WOLFF. 'ne griene Weste is drin vom Herr Krieger.  
(Hauptmann 2008: 47-48)
- 24) OBERWACHTMEISTER Habense sich denn schon nach Arbeit umgesehen?  
Voigt Det mach ick 'n janzen Tach, seit ick raus bin. Ick hab mir schon 'n Paar Sohlen kaputtjeloofen. [...]  
OBERWACHTMEISTER [...] Also kommense mal wieder, wennse Arbeit haben. Dann können wir weiter sehn.  
Voigt Ick bekomm ja keene Arbeet ohne de Anmeldung. Ick muß ja nu erst mal de Aufenthaltserlaubnis – (Zuckmayer 2009: 17)
- 文学作品における“Missingsch”に関する言語意識の変遷
  - “Missingsch”：低地ドイツ語を基層とする「標準」的なドイツ語、  
あるいは北ドイツ方言を用いた人工方言
  - ・19世紀初頭：「標準語」がまだ普及していなかったため、  
「教養」のイメージと結びついていた（比較的裕福な中流階級など）
    - 「標準語」を話そうとする上昇志向の低地ドイツ語話者というキャラ付け
    - 1860年代以降、文学作品での使用例が増える
  - ・20世紀：「標準語」が普及したため「無教養」や「滑稽」のイメージと結びつく
    - ただし、地域的なアイデンティティのためには好意的に使用される
    - コミックでは、（社会層とは無関係の）キャラ付けのために使用されることも  
(Vgl. Bichel 1979; Wilcken 2015)

### 4. おわりに

- 「言語意識史」という視点から、役割語として機能する言語や言語変種を扱う利点：  
言語意識や文学（史）に関する先行研究が活用できる

## 一次資料

- Brösel (2019a [1983]): *Werner. Wer Sonst?* Sören.
- Brösel (2019b [1989]): *Werner. Besser Is Das.* Sören.
- Brösel (2019c [1998]): *Werner. Exgummibur!* Sören.
- Brösel (2020 [1981]): *Werner. Oder Was?* 2. Aufl. Sören.
- Endo, Tatsuya (2022): *Spy x Family* 3. Übers. von L. C. Christiansen. 4. Aufl. Lausanne.
- Fontane, Theodor (2012 [1885]): *Unterm Birnbaum.* Stuttgart.
- Hauptmann, Gerhart (2008 [1893]): *Der Biberpelz. Eine Diebskomödie.* Husum.
- Keller, Gottfried (2007 [1856]): Spiegel, das Kätzchen. Ein Märchen. In: ders.: *Die Leute von Seldwyla.* Stuttgart. S. 235-274.
- Kishimoto, Masashi (2010): *Naruto* 41. Übers. von Miyuki Tsuji. Hamburg.
- Kishimoto, Masashi (2011): *Naruto* 49. Übers. von Miyuki Tsuji. Hamburg.
- Klinger, Friedrich M. (1998 [1776]): *Sturm und Drang.* Stuttgart.
- Konishi, Noriyuki (2016): *Yo-kai Watch* 1. Übers. von E. Tabuchi/F. Weitschies. Lausanne.
- Lindenau, Carmen v. (o. J.): *Die neue Praxis. Dr. Norden. Der junge Arzt bringt frischen Wind.* Bd. 49. Hamburg.
- Oda, Tomohito (2022): *Komi Can't Communicate* 4. Übers. von Anne Klink. 3. Aufl. Hamburg.
- Siebold, Henrik (2016): *Inspektor Takeda und die Toten von Altona.* Berlin.
- Storm, Theodor (1993 [1874]): *Pole Poppenspärer.* Stuttgart.
- Zuckmayer, Carl (2009 [1931]): *Der Hauptmann von Köpenick.* Frankfurt a. M.

## 参考文献

- Bellmann, Werner (Hg.) (1978): *Gerhart Hauptmann. Der Biberpelz.* Stuttgart.
- Bichel, Ulf (1979): Beobachtungen und Überlegungen zum Thema: „Missingsch“, Sprachform und literarische Verwendung. In: Wolfgang Kramer u. a. (Hg.): *Gedenkschrift für Heinrich Wesche.* Neumünster. S. 7-29.
- Cherubim, Dieter (2015): Die Gleichzeitigkeit des Ungleichzeitigen in der deutschen Sprache. In: Eva Neuland (Hg.): *Sprache der Generationen.* 2. Aufl. Frankfurt a. M. S. 251-275.
- Eroms, Hans-Werner (2003): Identität durch Sprache in der neueren deutschen Literatur. In: N. Janich/C. Thim-Marbrey (Hg.): *Sprachidentität–Identität durch Sprache.* Tübingen. S. 137-153.
- Eversberg, Gerd (1992): Kommentar. In: Theodor Storm: *Pole Poppenspärer. Text, Entstehungsgeschichte, Quellen, Schauplätze, Abbildungen.* Heide. S. 73-116.
- Frisen, Werner (1986): *Carl Zuckmayer. Der Hauptmann von Köpenick.* München.
- Gelfert, Hans-Dieter (1993): *Wie interpretiert man eine Novelle und eine Kurzgeschichte?* Stuttgart.
- Hosokawa, Hirofumi (2019): Sprachliche Grenze und Überschreitung. Eine Überlegung zur Rollensprache im deutschen Literaturwerk. In: *The Hannan Ronshu. Humanities & Natural Science* 55.1. S. 1-9.
- Löffler, Heinrich (2010): *Germanistische Soziolinguistik.* 4. Aufl. Berlin.
- Mattheier, Klaus J. (1991): Standardsprache als Sozialsymbol. Über kommunikative Folgen gesellschaftlichen Wandels. In: Rainer Wimmer (Hg.): *Das 19. Jahrhundert.* Berlin/New York. S. 41-72.

- Mattheier, Klaus J. (1993): „Mit der Seele Atem schöpfen“. Über die Funktion von Dialektalität in der deutschsprachigen Literatur. In: Klaus J. Mattheier u. a. (Hg.): *Vielfalt des Deutschen. Festschrift für Werner Besch*. Frankfurt a. M. u. a. S. 633-652.
- Mattheier, Klaus J. (1997): Dialektverfall und / oder Dialektrenaissance. Überlegungen zur Entwicklung der Dialektalität in der gegenwärtigen deutschen Sprachgemeinschaft. In: Gerhard Stickel (Hg.): *Varietäten des Deutschen*. Berlin/New York. S. 404-410.
- Mattheier, Klaus J. (1998): Kommunikationsgeschichte des 19. Jahrhunderts. Überlegungen zum Forschungsstand und zu Perspektiven der Forschungsentwicklung. In: Dieter Cherubim u. a. (Hg.): *Sprache und bürgerliche Nation*. Berlin/New York. S. 1-45.
- Scharloth, Joachim (2005): *Sprachnorm und Mentalität. Sprachbewusstseinsgeschichte in Deutschland im Zeitraum von 1766 und 1785*. Tübingen.
- Thim-Mabrey, Christiane (2003): Sprachidentität – Identität durch Sprache. Ein Problemaufriss aus sprachwissenschaftlicher Sicht. In: N. Janich/C. Thim-Mabrey (Hg.): *Sprachidentität–Identität durch Sprache*. Tübingen. S. 1-18.
- Wilcken, Viola (2015): *Historische Umgangssprachen zwischen Sprachwirklichkeit und literarischer Gestaltung. Formen, Funktionen und Entwicklungslinien des ‚Missingsch‘*. Hildesheim u. a.
- 金水敏 (2003) 『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』、岩波書店。
- 金水敏 (2011) 「現代日本語の役割語と発話キャラクタ」金水敏 (編) 『役割語研究の展開』、くろしお出版、7-16 頁。
- 金水敏 (2014) 『コレモ日本語アルカ? 異人のことばが生まれるとき』、岩波書店。
- 金水敏 (2017) 「言語—日本語から見たマンガ・アニメ」山田奨治 (編) 『マンガ・アニメ』で卒論を書く』、ミネルヴァ書房、239-262 頁。
- 金水敏 (2018) 「キャラクターとフィクション 宮崎駿監督のアニメ作品, 村上春樹の小説をケーススタディとして」定延利之 (編) 『「キャラ」概念の広がりと深まりに向けて』、三省堂、64-83 頁。
- 定延利之 (2020) 『コミュニケーションと言語におけるキャラ』、三省堂。
- 細川裕史 (2009) 「社会語用論的語史研究とはなにか? 社会コミュニケーションとしての語史研究に関する一考察」学習院大学ドイツ文学会 『研究論集』13号、67-94 頁。
- 細川裕史 (2011) 「コミック翻訳を通じた役割語の創造 ドイツ語史研究の視点から」金水敏 (編) 『役割語研究の展開』、くろしお出版、153-170 頁。
- 細川裕史 (2017) 「19 世紀のドイツにおける「日常語」の統語構造 文学作品に基づく会話史研究の試み」学習院大学ドイツ文学会 『研究論集』21号、45-64 頁。
- 細川裕史 (2022) 「役割語としての〈ヨード語〉の日独訳」『阪南論集 人文・自然科学編』57 巻2号、21-38 頁。
- 山口治彦 (2007) 「役割語の個別性と普遍性 日英の対照を通して」金水敏 (編) 『役割語研究の地平』、くろしお出版、9-25 頁。